

事業名

**育てよう地域の「輪」・「話」・「和」**

目 標

**学習支援・環境整備・行事支援・柿に学ぶ**

## 1. 取組の視点

「子どもの元気は校区の力、地域の力、子どもが育てば地域は育つ。育てよう地域の輪、話、和」を目標として、本年度も、先進地視察や文部科学省の研修などを通してコーディネーターの力量を高める取組を実施してきました。昨年度から取組を始めた柿プロジェクトも継続して活動し特色ある取組を目指しました。また学習支援の取組がより充実したものになるように努めました。従来からの安心・安全、環境整備・学校行事支援も継続を目指しました。

## 2. 取組の概要

昨年度の文科省との共同研究「つるし柿プロジェクト」を今年度は地域の大事な事業として位置づけました。講師を招いての「しぶ柿を知る」取組からはじまり、しぶ柿をとる、皮をむく、つるし柿にする、クッキーをつくる、無料で配布するなどの一連の活動をおこないました。



柿の種類の多さに驚き、ポリフェノールが多くふくまれるすばらしい健康食品や渋が様々な生活場面で使われていることを学びました。子どもたちが柿をとる際、昔の竹でつくったものを使用させました。最初はな



なかうまく取れなかった子どもたちも、経験を重ねるうち、巧みにとれるようになり、道具を上手く使える感動も味わいました。

寺子屋プロジェクトでは夏休み・冬休み宿題助け隊を実施するとともに、中学校一年数学寺子屋を週一回、二学期から実施することができました。参加した生徒は丁寧に教えてもらえたり、少し自分の成績があがったことを喜ぶ姿がみられたりしました。最低1名のコーディネーターの方が中心となって運営を続けてくださいました。



安全を守っていただく見守りボランティアの方々にも今年も感謝を込めてお礼の文を入れたカ

イロをお渡ししました。

視察校は和歌山県田辺市立新庄中学校で、会長を含め6名で参加しました。過去の災害の経験をもとに、中学校公民館が一体となり学校と地域社会の絆を深める「新庄3つの里づくり」を行っています。

## 3. 成果と課題

「柿プロジェクト」の取組をさらに充実したものにしてきました。子どもの生き生き活動する姿がコーディネーターやボランティアの活動の源になっています。

学習支援の活動の充実を図ってきましたが今年度は中一数学寺子屋で定期的開催することができました。子どもの感謝の姿や言葉が印象的でした。

課題としては、新しい人材の発掘と先生方とのさらなる協力があげられます。楽しく長く続けるためにも感謝の気持ちを伝えたり、参加できないときは無理をしないでできる者がやったりという思いやりの輪を今後も大切に広げていきたいです。

事業名

## 豊かな人間性の育成

目標

### 大きな舞台での発表や職場体験等で、豊かな人間性を育成する。

#### 1. 取組の視点

「感謝の心・人権の尊重」を大切に、子ども達との人間関係、信頼関係を大切にしながら、子ども一人一人に知・徳・体の調和のとれた人格を形成し、未来を担える人間を育成するため、本校区では、家庭・学校・地域が一体となって、生徒の自主性や自立心、そして豊かな感性を育ててきました。春のベゴニア、秋のパンジー等の花作りを、情操教育の一環として定着させ推進させたことは、保護者や地域の中でも高く評価されています。

さらにそれらを高めるため、今年度も土作り、施肥、灌水などの比較的長期的な作業をとおしての花作りを、いたわりの心や感動、また、環境や物を大切にするなど豊かな心を育む取組の一つとして、推進してきました。また、上記取組と共に、大きな舞台での発表や、職場体験等の様々な体験から、自ら学ぶ意欲や問題解決する能力等を養い、子どもたちの感性を高め、豊かな人間性を育成してきました。



#### 2. 取組の概要

立派な舞台・多くの観衆の前で表現できる機会を持たせ、コミュニケーション能力や、相手を思いやる豊かな感性を高めるため、9月14日に文化会館を貸し切り、クラス合唱や文化発表等の体験をさせました。

また、9月27日には8人の講師（看護師、保育師、美容師、マナーインストラクター、ケーキ

職人、プロカメラマン、元奈良交通指導員、旅行インストラクター）を招聘し、働くことのすばら



しさを厳しさを理解させたいうえで、職場体験を実施することができました。

6月14日には、2年生がベゴニアを、12月10日には1年生がパンジーの花苗（3色）を、一人ひとりがそれぞれのプランターに植える体験を実施しました。また、11月13日には、各クラスにシクラメンの花を飾ることができ、生徒たちの感性を、さらに高めることができました。

#### 3. 成果と課題

ボランティアや地域の方々の協力のもと事業を実施したことで、子ども一人一人が学校や地域で大切にされていると実感すると共に、互いにコミュニケーションを深くとるようになり、子どもたちの友情も深まり、豊かな人間性の育成につながりました。また、一つの大きな目標に向かって、みんなで真剣に取り組む中で、相手を思いやり、相手の思いを感じ、相手の身になって考えられるような、豊かな感性も育ちました。職業調べ講演会では、それぞれの職業に従事しておられる上での、喜びや苦勞、心がけなど様々な内容を聴かせていただき、自分の進路について深く考えることで、社会人としての意識や態度が育ちました。また、職場体験では、子ども一人一人に、彼らの個性が生かされる場が提供できたと思います。

事業名

**やる気・元気・優しさあふれる青和っ子プラン**

目標

**学校・家庭・地域が協働して子どもをはぐくみ、地域との絆を深める。**

## 1. 取組の視点

本校では教育目標に「人間性豊かで、自主的に生活をきりひらくたくましい児童を育てる」をかかげ、「話・和・輪」を活かした地域連携による子どもの育成をテーマとし、事業を推進してきました。地域の様々な場面で活躍されている方々の支援を受けながら学び交流を行い、学校・家庭・地域が協働して子どもたちを育むことで地域との絆を深めていきたいと考えました。

## 2. 取組の概要

確かな学力を身に付けるため、豊かな体験を通して学ぶ授業を重視し取り組んできました。

2年生では生活科を中心にさつまいもの苗植えを体験し、栽培支援の方々に「苗の葉が太陽に向くように上に向け植えます」と一人一人に具体的にしかも丁寧に植え方を教えていただきました。11月の収穫祭では、支援員の方々に招かれ感謝の気持ちを言葉や手紙にして伝え、



交流を深めました。



5年生では、森林環境教育の実施にあたり大淵池公園内にある「産土の森」まで実際に行き、支援員の方々にこの森の歴史や保存の趣旨を教えていただき、植えられている木々について説明を受けました。支援の方々に直接話を聞くことで、森の大切さについて理解を深めることができました。

このように実際に体験することで、子どもたちは自ら学ぶ楽しさを体感し、確かな学力を身に付けることができました。

今年度も、読書の習慣を高め豊かな表現力を育てるため図書の充実をはかり、地域からは図書館

支援として図書ボランティアの方々に読み聞かせをしていただき、また本の整理・修理、掲示物の作成など図書館環境の整備をしていただきました。



教育環境整備支援でも、保護者・地域の方に多数参加いただき、掃除から剪定までしていただき子どもたちも二学期を気持ちよくスタートすることができました。本当にありがとうございました。その後も絵手紙や筆づくりでも多くの地域の方々に支援していただきました。



また、交通安全支援では、子どもの安全と命を守るために、朝早くから暑い日も寒い日も毎日、立哨していただき、今年度は、給食開始まで1年生の下校時の立哨までしていただきました。



お互いにあいさつをかわすことで心がふれあい、「自分のことを大切に思ってくれる人がある。」このことで心の絆が深まり、コミュニケーションの輪が広がっています。

3. 成果と課題

今年度も地域との関わりを大切に取組を推進してきました。子どもたちの知的探求心を育て、自ら学ぶ楽しさを体感させ、確かな学力を身に付けさせることができました。

地域で子どもを育むという思いで、たくさんの支援をいただき、感謝しております。今後も学校と家庭と地域が一体となって子どもを育てていきたいと思っております。

事業名

**「磨けよ心、鍛えよ体」地域と学ぶ二名っ子**

目標

**地域の方から学ぶことで、豊かな心や人間関係力を育み、体力向上をめざす。**

## 1. 取組の視点

- ・「体力・運動能力」の向上
- ・「豊かな心」や「人間関係力」を養う

以上、本校児童のこの2つの課題克服に向け、教職員の研修、研究を深め、子ども自らが運動する喜びを感じることを大事に、体力・運動能力向上の取組をすすめてきました。また、様々な人と人とのふれあいの中で、人と関わることの喜びを感じ、「人と関わりたい、繋がりたい」という意識を育て、人間関係力を高めようと取組を進めてきました。

## 2. 取組の概要

体力向上については、大学院准教授との連携により研究協議を2回、体育の研究授業を3回行いました。また、普段から相談にのってもらうなど、

**「木こり隊」による剪定作業ですっきりしました**

最新の体育の指導方法を学ぶことができました。

「縦割りでの遊び」や「先生も遊ぼう」「縄跳びの大会」等々様々なイベントを企画しました。さらには本年度、地域とPTAよりいただいた大型すべり台を利用し「二名サーキットコース」を作るなどして広い運動場全体を活用した体力作りに取り組みました。これらの取組の結果、奈良県の「元気な大和っ子を育む学校」として表彰されるに至ったことは、学校のみならず地域全体の喜びともなりました。

地域のボランティアの活動も活発に行われて

おり、図書ボランティアには年間を通して読み聞かせを行っていただきました。安全パトの方々には

**日々、安全を見守っていただいております**

「町探検」や「昔遊び」などの学習に協力していただきました。また、今年度6年生では自治連合会長から二名小学校の歴史や自治会の活動、なかでも、地域の安全を見守る人々の願いを児童に話していただきました。また、11月には「木こり隊」と「スポーツ協会」の皆さんによる大規模な校内樹木の剪定作業が行われ、学校の自然環境は見違えるほど美くなりました。

また、地域の安全見守りの方々に、子どもたちの感謝のメッセージを添えたカイロを届けることができました。その時の地域の方々の笑顔に感謝しながら、今後もさらに取組を深めたいです。

## 3. 成果と課題

「豊かな人間関係作り」は数値的に測れるものではないが、二名の児童は地域の方々とのつながりや、子ども同士のつながりのなかで、お互いの良さや違いを認め合い、心温め合うことの大切さを確かめ合うことができました。ただし、日々の生活において児童の「コミュニケーション能力」「相手の気持ちに立った言葉がけ」等の課題は残っています。今後もさらに地域・家庭・学校が連携しあいながら、課題克服に向け努力したいです。

事業名

**心が動く・体が動く・笑顔が輝くみんなの幼稚園**

目標

**人・物、自然と出会い、心を動かす感動体験を広げる**

## 1. 取組の視点

子ども達は、多様な環境（人、もの、自然）と出会い、心を動かす体験を重ねることで、心や体を育てていきます。本園では、地域の協力を得、保護者の力を活かしながら、いろいろな体験活動に取り組み事業を進めてきました。

## 2. 取組の概要

地域の方を講師に招いて「空手で遊ぼう」「英語で遊ぼう」「リトミックで遊ぼう」「わらべうたで遊ぼう」「お話広場」を行いました。空手では、心も体も強くなり、礼儀を学びました。



リトミックでは、いろいろな音に合わせて楽しく表現しリズムカルに動く楽しさを味わいました。また、わらべうたで遊ぼうでは、わらべうたやお手玉を通して、親子で楽しくふれ合って遊ぶことができました。

「お話広場」として地域の方から民話や外国の楽しいお話の語りを月1回、お母さんによる絵本の読み聞かせを月2回継続して行いました。子ども達は毎月のお話を心待ちにし、どの子もお話が大好きになり、聞き方も上手になっています。今年には絵本を多く購入して、読書環境も充実させた。また図書ボランティアを募集して絵本にブック

ーをつけたり、カラーシートで絵本の部屋を楽しい空間に変えていただいたりしました。

11月の家族参観では、小学校の体育館を借りて「親子ふれあい体操」で遊びました。広い体育館で、体を動かすことの楽しさを味わうことができました。また、昨年に引き続き、園庭でミニSL機関車に乗せてもらいました。みんな大喜びで、心が動き、笑顔輝く体験となり、その後ミニSL機関車の共同制作に取り組みました。

また、地域の民生委員さんや青和ふれあい会の地域のお年寄りの方とふれ合う機会をもちました。一緒に歌を歌ったり、伝承遊びをしたりして地域の方との温かい交流ができました。

## 3. 成果と課題

子ども達が地域の方の温かい人柄に触れ、いろいろなことを教えていただいたり、活動したりすることで多様な経験ができたことは、「心が動く、体が動く、笑顔が輝く」ことにつながりました。

これからも保護者や地域の教育支援を活かした体験活動を計画的に実施していきたいです。また、青和小学校や二名幼稚園との交流の取組も大切に、他園や幼小の連携をさらに深めていきたいです。



事業名 『二名大好き 奈良大好き』

目標 みんな **にこにこ もりもり きらきら大きく育て**  
 様々なふれあいや心に響く感動体験を通して、感性豊かでたくましく生きる幼児を育てる。

1. 取組の視点

地域の方々とふれあい、人材をいかした保育内容の創造と充実を図ることで心に響く感動体験が味わえると考えました。【にこにこ】と人とかかわることが楽しいと感じ、【もりもり】と充実感や満足感をもちいきいきと生活し、【きらきら】と豊かな感性で表現できる環境や援助の在り方を考えていきました。

2. 取組の概要

<柿を知ろう～五感を通して～>

○ 絵手紙を作ろう。 11月12日

自然の恵み、社会の恵み、人の温かさなどに感謝することを絵手紙で表現しました。相手のことを思い浮かべながら描くことはとても有意義な時間でした。



○ 柿の木を植えよう。 11月15日

富士柿の木を二名中学校生徒・保護者・地域の短大生と一緒に植えました。大きなスコップを持ち「大きくなあれ、おいしくなあれ」と言いながら、どんなになるのか期待したり、大きくなった自分に夢を膨らませたりしながら植えました。



○ 干し柿を作って食べよう。 11月～12月

絵手紙で活用した渋柿を干してつるし柿にしました。つるしてある柿がどんどん小さくなり、変化していく様子を見たり、触ったり、匂いをかいだりしながら「どんな味だろう」「渋柿やったからおいしくないよ」と言いながら、食べてみると「おいしい、何故かな」



と味がかわったのでびっくりしていました。

<花を楽しもう> 12月4日

日々、花を育て美しいと感じています。花を手にとり自分で生ける経験をしました。「花も生きているので、優しくしましょう」と講師の先生が話してくださり、幼児たちは真剣に取り組んでいました。後日、園内作品展に展示したことで、見に来てくださった保護者・地域の方・小学1年生は「心が温まる作品であった」「子どもの成長がみられてうれしい」「上手だね」という感想をいただきました。



<大好き！二名幼稚園！> 1月23日

杵築神社やトレドの森・大淵池公園など園外保育に行きました。小・中学校との連携、公民館交流など身近なものとなつていきます。この経験から、自分たちの住んでいる町に興味をもち、「二名幼稚園はどうしてできたのだろう」と疑問をもつようになり調べことにしました。地域の方のお話を聞き、幼稚園ができるまで大きな山や川があったこと、「二名に幼稚園を！」という地域の方の思いや願いに幼児たちは感動し、次々と質問をしていました。

杵築神社やトレドの森・大淵池公園など園外保育に行きました。小・中学校との連携、公民館交流など身近なものとなつていきます。この経験から、自分たちの住んでいる町に興味をもち、「二名幼稚園はどうしてできたのだろう」と疑問をもつようになり調べことにしました。地域の方のお話を聞き、幼稚園ができるまで大きな山や川があったこと、「二名に幼稚園を！」という地域の方の思いや願いに幼児たちは感動し、次々と質問をしていました。



3. 成果と課題

園評価で次年度も同じ取組を引き続きしてほしいという保護者が100%でした。地域の方や保護者の過重負担にならないような計画を実施していきたいと思います。また、家庭、地域、小・中学校の連携をより一層深め、豊かな心を育み、幼児の確かな育ちに繋げていけるように、地域への情報発信や交流に努めていきたいです。